

IMFが経済見通しを修正、ワクチン接種の進捗状況により2極化

ポイント① ワクチン接種率により2極化

7月27日、IMF(国際通貨基金)は2021、22年の世界経済見通しのアップデートを発表しました。これによれば、世界の実質GDP(国内総生産)成長率は2021年には6.0%と、4月時点の見通しと同水準でした。一方、地域別に見ると、米国が7.0%、ユーロ圏が4.6%と、4月時点の見通しから、それぞれ、0.6ポイント、0.2ポイント上方修正されたのに対し、日本が2.8%、新興・発展途上国が6.3%と、4月時点の見通しから、それぞれ、0.5ポイント、0.4ポイント下方修正されました。

IMFによれば、ワクチン接種の進捗状況の差が、世界経済の回復を二分しており、本年後半に経済活動の更なる正常化が期待できる国々(ほぼすべての先進国)と、引き続き感染再拡大や新型コロナによる死者数増加に直面する国々(新興・発展途上国)に2極化するとしています。

ポイント② 来年は世界全般で上方修正

来年には世界の経済成長率は4.9%と、今年に比べて減速する見通しとなっていますが、来年に関しては、各地域ともに4月時点の見通しから上方修正されています。ワクチン接種が遅れた地域でも来年には進み、米国での財政刺激なども引き続き経済を押し上げると見ているようです。

ポイント③ インフレがパンデミック前水準へ

今年の先進国、来年の世界的な景気回復を受けて、2021、22年の消費者物価インフレ率の見通しは、先進国、新興・発展途上国共に4月時点の見通しより上方修正され、パンデミック以前の水準を回復するようです。但し、主要中央銀行は、当面はインフレ率上昇を容認し、引き締めに転じることを回避すべきとしています。

図1：国・地域別実質GDP成長率見通し

(前年比、%)

	2020	2021	2022
世界	-3.2 (0.1)	6.0 (0.0)	4.9 (0.5)
先進国	-4.6 (0.1)	5.6 (0.5)	4.4 (0.8)
米国	-3.5 (0.0)	7.0 (0.6)	4.9 (1.4)
ユーロ圏	-6.5 (0.1)	4.6 (0.2)	4.3 (0.5)
日本	-4.7 (0.1)	2.8 (-0.5)	3.0 (0.5)
新興・発展途上国	-2.1 (0.1)	6.3 (-0.4)	5.2 (0.2)
中国	2.3 (0.0)	8.1 (-0.3)	5.7 (0.1)
インド	-7.3 (0.7)	9.5 (-3.0)	8.5 (1.6)

(注) IMFによる予測

(注) ()内は2021年4月時点見通しからの修正幅。

(出所) IMF「World Economic Outlook Update, July 2021」
(<https://www.imf.org>)より野村アセットマネジメント作成

図2：消費者物価インフレ率と短期金利の見通し

(%)

	2020	2021	2022
消費者物価(前年比)			
先進国	0.7	2.4 (0.8)	2.1 (0.4)
新興・発展途上国	5.1	5.4 (0.5)	4.7 (0.3)
短期金利			
米ドル6か月金利	0.7	0.3 (0.0)	0.4 (0.0)
ユーロ3か月金利	-0.4	-0.5 (0.0)	-0.5 (0.0)
円6か月金利	0.0	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)

(注、出所) 図1と同じ

重要
イベント

7月29日

7月30日

米GDP(国内総生産、4-6月期、速報値)
米個人所得、消費支出、消費支出デフレター(6月)